

7月1日に群馬県少年の主張西部地区郡大会が、甘楽町文化会館で行われました。下仁田町、甘楽町、南牧村、上野村、神流町の各学校の代表者が集まり、素晴らしい主張が行われました。本校の代表になった生徒の「少年の主張」を紹介します。

『目標の人』

三年 ○○ ○○

私の将来の夢は陸上自衛官です。
と、前は堂々と言えませんでした。ですが、今は言えます。どうしてそのように変わったのか、話したいと思います。

私が小学五年生のときに、自衛官が台風が来て困っている人を助けて、被害にあった人たちを支えて活躍しているところをニュースで見ました。

「なんて格好いいんだろう。」

私はその時、人のために活躍する自衛官がすごくカッコよく思えました。そして、陸上自衛官になりたいと思いました。

ですが、中学二年生の二学期の総合で職業調べをしていく内に、自分が本当に自衛官になりたいのか不安になりました。なれる自信がないと思いこみ、不安ばかりで、違う夢を持ったほうがいいのかも・・・と考えてしまいました。

そんな時、兄のレスリング部の先生がレスリング教室に誘ってくれました。私は楽しくて、毎週行きました。そしてだんだん高校生の先輩たちとも関わることが多くなっていきました。

そんな時、ある一人の先輩が陸上自衛官になることを兄や先生が教えてくれました。その先輩はレスリング部の元部長で部活を引退してからも、部活に来ていつもみんなのことを支えたり、誰にでも優しくしてくれたりして、とてもカッコいい先輩でした。

私はあまり人と話すのが得意ではないし、先輩が多くてうまく話せるか心配でした。でも、その先輩が優しく技を教えたり、とてもわかりやすくアドバイスをくれたり一緒に雑談などをしてくれて、とても嬉しかったことを覚えています。私は、そんな先輩のような人になりたいくていつの間にか先輩が自分の目標の人、尊敬できる人になりました。

諦めていた夢を叶えたいと再び思いはじめました。今は先輩と同じ陸上自衛官になりたいくて体力をつけたり勉強をしたりしています。

私は勉強が苦手で難しいところは避けてしまうけれど、先輩のことを思い出して、難しいところや苦手な教科の勉強も頑張っています。今年は受験がありますが、これから先輩みたいな人になりたいので、苦手な部分を減らしていきたいです。そのためにできなかったところの復習や自主学習をコツコツ積み重ねていきたいです。

私は目標になる人ができたことで、がんばろうと思う気持ちを持つことができました。一度は自分の将来の夢に対して、自信をなくしましたが、今はまた頑張ろうと思っています。

もし今、将来の夢に自信がない人がいたとしたら、自分の目標の人を持つと思います。自分のあこがれ、目標になりそうな人は誰かいませんか？探してみてください。そうすれば、私のように自信がなくて諦めていたこともやる気がでて、頑張ろうという気持ちが持てると思います。

今、目標の人がいないという人もいると思います。私も目標の人がすぐにできるとは思いませんでしたが、新しいことにチャレンジすることで、目標の人が見つかりました。新しい出会いやチャレンジをすることで突然、目標の人ができたりすることもあると思います。

自分の夢をあきらめないためにも、「目標の人」をみつけてみませんか？あなたの身近に実はいるのかもしれない。



祖母の教え

一年 ○○○○○

私には尊敬している祖母がいます。

祖母は捨てられている子猫、迷子になってしまった保健所に保護された犬、ペットショップの小さなケージの中で目があつた犬達、どんな境遇に置かれた動物たちも家族として受け入れると決めた瞬間から思いっきり愛情を注ぎ、あたたかい優しさで包み込む様に共に生活を始めます。そして必ず、その動物たち『最後の瞬間を想像』し共に生きることを決意します。



私には『動物の最期の瞬間を想像する』ことがよく理解することができませんでした。一緒に生活を始めると決める前にお別れのことを想像するなんてつらすぎるからです。そんなことをする意味もわかりませんでした。しかし、ある出来事から私の考えは変化し、祖母の考えを尊敬するようになったのです。それはとても切なくて、胸をあつくする体験でした。

祖母の家には、くるみというメスの柴犬がいました。くるみは私が生まれたときから祖母の家にはいました。可愛いけど失敗が多く、他の犬よりしつけに少し時間がかかる犬でした。猫のエサを勝手に食べてしまったり、テーブルにあがり人間の食べ物を食べてしまったりすることが何度もありました。その後、きつくしつけをするのですが五分もすると忘れてしまい同じ事をして、またしかられるというのが毎日の日課でした。私はそんなくるみの行動に思わず笑ってしまい、同時にいやされていました。いつも元気でマイペースなくるみ。怒られても怒られても、めげずに毎日同じ事をくり返すおちゃめなくるみ。食べることが大好きで何度注意されても盗み食いしちゃうくるみ。人の気持ちが分かるかのように寄り添ってくれるくるみ。私はそんなくるみが大好きでした。

しかし、いつも元気だったくるみも少しずつ歳を取っていきました。寝ている時間が増え、遊ぶことが少なくなり、食事よりも水分摂取が多くなり、くるみの体はとても小さくなっていきました。くるみの体はちいさくなる一方で、くるみの存在は今までよりもずっと大きくなり、くるみを思う気持ちもますますふくらんでいきました。そして初めてくるみの『最後の瞬間』を想像しました。

でも、私の想像する最後と祖母の想像する最後とは根本的に大きく違っていたのです。私はくるみの最後の瞬間に『一緒に居たい』と思いました。しかし、祖母はくるみの『最後の瞬間にくるみがしあわせであってほしい』と願っていました。くるみがしあわせである環境はどんなものか？どんな場所で誰と居ることがくるみにとってしあわせな最後なのか、くるみのことを一番に考え行動していたのです。

祖母は、くるみがずっとすごしてきた家で最後をむかえることが、くるみにとって一番安心できる環境であると判断し、そのように行動しました。祖母の行動は命に対しての誠意を感じる、とてもステキな姿でした。

一週間後、くるみの最後の瞬間がおとずれました。祖母に見守られながらくるみは静かに旅立ちました。とても静かな表情でした。

最後を想像することは簡単なことではありません。動物と話をすることもできないし、気持ちを打ち明けてくれることもないのですから。毎日共に過ごす中で、少しずつ見えてくることであって、それが正解なのかは誰にもわかりません。でも、共に生きる以上最後を考えることは命への責任なのです。

くるみとお別れをしてから、涙が止むまでに長い長い時間がかかりました。

その後私たちは、新しい命と出会いました。ブリーダーの家で売れ残ってしまったメスのトイプードルです。祖母は、言いました。「ばばは、この子より長く生きられないかもしれない。ばばがもし先に逝ってしまったら、この子の最後をひなたが考えてくれる？」と。祖母は最後を私に委ねてくれたのだと思いました。私は家族と相談し、受け容れることを決めました。命への責任を意識しながら。

私は動物たちの最後の瞬間がしあわせであるために毎日毎日一生懸命、彼らを愛する祖母が大好きです。

メスのトイプードルの名前はムギになりました。ムギの最後が幸せであるよう、私も精一杯愛し、祖母の様に命への責任を果たせる人になりたいと強く思います。